



東京YMCA

2017 3 月号

発行所 公益財団法人東京YMCA 発行人 廣田光司
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

東日本大震災6年

再建の道半ば、心の傷もまだ癒えず

最大の懸念は「風化」

学校法人仙台YMCA理事長
石巻広域ワイズメンズクラブ 清水 弘一

あれから6年が経ちました。被災地は今なお復興途上にあるものの、メディアへの登場も減り、

（学校法人仙台YMCA理事長／石巻広域ワイズメンズクラブメンバー）に投稿いただきました。

団体の撤収も相次ぎ、被災地を訪れる人々も激減しました。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災の被災地は、復旧から復興へまもなく7年目を迎えるとしておりますが、遅れた。多くのボランティア

（学校法人仙台YMCA理事長／石巻広域ワイズメンズクラブメンバー）に投稿いただきました。



復興住宅団地でストレッチヨガ教室



石巻広域ワイズメンズクラブの打合せ（YMCA石巻センターで）



震災直後から続いている「歌の広場」

そして昨年5月、石巻市に念願の「石巻広域ワイズメンズクラブ」が設立され、仙台を始め全国のYMCAやワイズメンズクラブの支援を得て活動を始めました。大震災発生直後から続いている歌の広場、被災地小学生交流サッカー、被災地中

学生との津波石建設協働プロジェクト、復興住宅団地での美化活動やストレッチヨガ教室の開催、地元物産品販売支援など、日々変化する被災地で何が必要とされているかを考えながら、活動を継続しています。被災地の人々の最大の

福島のご家族対象「リフレッシュキャンプ」開催70回



主に福島のご家族を対象に、三菱商事株式会社等の協賛で開催している「フレンドシップキャンプ（通称：リフレッシュキャンプ）」は、2011年から開催累計70回となりました。2月10日～12日には東京YMCA妙高高原ロッジを会場に開催。39人のご家族が参加され、雪遊びやクラフト、ゲーム大会、花火などたくさんのプログラムを満喫されました。

福島では今もなお、家族が別々に生活したり、放射能への不安から小さい子どもの外遊びを制限したりと、事故の影響が続いています。夜の懇親会では、放射能の恐怖や、これからの生き方について真剣なお話を伺う場面もありました。震災6年となり他団体による保養キャンプは減りましたが、「普段話しにくい放射能の不安なども話せて、思いを共有できた」など、参加者アンケートには切実な思いが寄せられました。（会員部 沖 利柯）

赤三角

私は10歳の頃YMCAのサッカークラスに入会。中学生の時に世田谷センターのクリスマス会で初めて教会に足を運びまし



ごさんかい 午餐会 700回

各界の講師に学び70余年 第700回講師は森本あんり氏

東京YMCAを会場に
行われた
第700回午餐会。



第700回午餐会は、国際基督教大学副学長で、神学者の森本あんり氏が講演。

毎月毎月、歴史を重ねてきた講演会「東京YMCA午餐会（ごさんかい）」が、2月20日で第700回を迎えた。その日の卓話者は国際基督教

YMCAはロンドンで創始した当初より、互いの人的成長を目指し、有志による勉強会や祈りの会が各所で持たれてきた。東京YMCAも例外でなく、それらの小さな集いが発展し、やがて「午餐会」という名称の会合が生れる。資料室に保管されている東京YMCAの機関紙「東京青年」をたどっていくと、1927年3月号にはじめて「午餐会」への参加を呼びかける記載が見つかり、この頃から東京YMCA本館の食堂や会議室を会場に、昼食をと

にした後にゲストから話を聴くスタイルの「午餐会」が始まったことが判る。一時期は毎月開催の「月曜午餐会」、毎週開催の「木曜午餐会」の2つの流れがあったが、時代が進みほぼ月1回開催の「午餐会」に落ち着いた。戦後一時期の

中断を経て、1947年4月に午餐会が再開されたことを喜び、この時を第一回として数えはじめた。従って実際は700回の留まらず、戦前の午餐会を合わせればもっと多く開催されてきたことになる。1970年からは賛助



＊午餐会世話人会では700回の記録をまとめた小冊子を発行した。ご希望の方は賛助会事務局まで。（tel. 03-3615-5562）

が挨拶を交わし、食事をともにする。人の交わり

（賛助会事務局・午餐会担当主事 戸坂昇子）

創世記に記された「光あれ」。平和な世界、豊かな社会作りに向けて、これまで以上に「人を愛する」ことを大切に、歩みを進められればと思います。（南センター 山梨 雄一）



近代泳法の普及にも貢献

東京YMCAが1917年（大正6年）に日本で初めての室内温水プール付き総合体育館を建設してから今年で100周年となりました。

この体育館は、鉄筋コンクリート3階建て。建坪約545㎡。プールのほかに、体育館、ボウリングアレー、観覧席などがあり、当時としては画期的な施設でした。体育館では、バスケットボール、バレーボール、ハンドボールなど、日本に馴染みのなかったスポーツが次々と普及され、プールでは「水府流」「神伝流」といった古代泳法に代わってクロールなど近代泳法が指導されました。冬場も泳げる場所としてオリンピック選手など数々の選手たちが練習を行い、日本の水泳界の国際化に大きく貢献しました。



1932年ロスオリンピックの水泳選手たち（東京YMCA会館前で）

とはいえ初の室内プールの運営には苦労もあったようで、水温維持のために赤字が続き、篤志家による寄付でまかなったという記録もあります。また水質管理のため、プールに入る前には石けんで全身を洗い、裸で泳ぐルールとなっており、写真撮影など特別な場合のみ、消毒済みの貸出ふんどしの着用が許可されたことも有名です。なお、プール前に石鹸で体を洗うことは、現在でも励行されるYMCAの特色となっています。

そもそもこの体育館は、東京YMCA第2代総主事・山本邦之助が1907年に欧米YMCAを視察したことを機に建設されました。当時のアメリカYMCAは、図書室やスポーツ施設、アパート、職業紹介所など青少年に必要な設備が整い、年齢も身分もさまざまな人たちが集う、活気ある施設でした。山本は帰国後、市民自由大学など次々と新しい事業を展開していきませんが、体育館の建設だけは、「庶民は兵式体操で足りる」など反対意見が多く、なかなか理解されませんでした。それでも山本は、「精神・知性・身体・社交性のバランスのとれた成長に体育は欠かせない」と説得し続け、また北米YMCAからの派遣主事等の力も借りながら、9年の歳月をかけて建設に至りました。そして開設5年後には、年間5万人以上が利用したと記録されています。

（出典「東京キリスト教青年会百年史」）

*全国のYMCAでは今年「室内プール100年」を記念し、展示会などを予定しています。詳細はホームページなどで随時お知らせします。

感謝報告

libyチャリティーコンサートに200人来場

不登校などさまざまな困難を抱える青少年の居場所「東京YMCA オープンスペース liby（リビー）」の支援を目的に2月18日、第18回チャリティーコンサートを開催。会場の日本基督教団阿佐ヶ谷教会には、約210名の方々が来場くださいました。



第1部は、今年出場11回目となる三菱商事コーラス同好会による、美しく洗練されたハーモニー。第2部は越智光輝さん（クラリネット&サクソ）、門倉美香さん（ピアノ）、斎藤草平さん（ベース）、鎌倉規匠さん（ドラム）の4名によるクラシック&ジャズ。お洒落で素敵な演奏に聴き入りました。

このコンサートは、東京たんぽぽYサービスクラブ、三菱商事株式会社、日本基督教団阿佐ヶ谷教会など、10の企業・団体から協賛・協力をいただいて行われ、募金額は152,078円となりました。来場くださった皆様、コンサートを運営くださったボランティア皆様、日ごろよりlibyを支援くださる多くの方々に改めて感謝申しあげます。（liby 小倉哲）

いじめをなくそう！ 全国で“ピンクシャツデー”開催



NPO法人「ストップいじめ！ナビ」による授業。同法人は全国の学校で出張授業を行ない、いじめ予防に尽力している。http://stopijime.org/



「ストップいじめ！ナビ」の弁護士で高等学院の憲法カフェでもお世話になっている足立悠先生（写真右）と「いじめ防止対策推進法」の策定に携わった金子春菜先生（同左）



東京YMCA高等学院は22日、「いじめ予防授業」を開催。NPO法人「ストップいじめ！ナビ」弁護士チームから、足立悠先生と金子春菜先生を講師に招き、

生の2人を講師に招き、

いじめとは何か、いじめを防ぐためには何をすべきなのかを、法律や事例をもとに具体的に学びました。

授業ではまず1つの事例が紹介されました。Aさんは、Bさんに借りたDVDを傷つけて

しまったことをきっかけに、仲良しの5人グループからだんだん距離を置かれるようになっていきます。あいさつしても微笑んでもらえない。会話に入りづらい。遊びに誘ってもらえない。仲間はそれはエスカレートしていき、Aさんは辛くて学校に行きたくないと思うようになりまし

た。これはいじめだと思いませんか？との質問に生徒たちは悩みます。「無視したり危害を加えたりはしていないから、いじめなのかどうかわからない」という声も聞かれました。借りた物を壊し

「やられた人が心身の苦痛を感じたら」いじめだと定義されています。つまりこの事例の場合、Aさんが辛いと思っ

た。この法律は、2011年に滋賀県大津市の中学生がいじめで自殺したことを機に策定されたものです。この日の講師である金子春菜先生は、国会議員の政策秘書としてこの法律の作成に関わったそうです。「いじめには物

がある」など、やった側の理由や手段は一切関係なく、「やられた人の気持ち」を基準に判断されるという、画期的な法律です。この法律は、2011年

に滋賀県大津市の中学生がいじめで自殺したことを機に策定されたものです。この日の講師である金子春菜先生は、国会議員の政策秘書としてこの法律の作成に関わったそうです。「いじめには物

がある」など、やった側の理由や手段は一切関係なく、「やられた人の気持ち」を基準に判断されるという、画期的な法律です。この法律は、2011年

弁護士が「いじめ予防授業」 いじめとは何か まず共通理解を

弁護士が「いじめ予防授業」

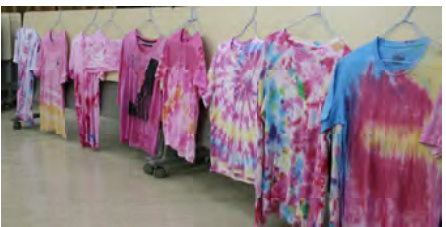
高等学院 特別授業で

いじめのない社会を目指すこと、今年も全国のYMCAは2月22日、世に「いじめ防止対策推進法」を制定し、いじめについて考える機会を設けました。

※「ピンクシャツデー」は2007年カナダで始まったいじめ反対運動。ピンク色のシャツを着た少年がゲイだといじめられたのを見た友人が、50枚のピンクシャツを配り皆で着ていじめに反対したこと



↑ピンクシャツに賛同してくれた東雲児童館・学童クラブの子どもたち。ピンクの小物を身につけて近所のゴミ拾いをしました！



高等学院の生徒たちはピンクをモチーフにTシャツの絞り染めを製作

合ったらよかったのでは」「Bさんたちに注意しても効き目はないよね」など、意見が飛び交いました。足立先生はいじめの加害者に直接注意すると、今度は自分がいじめのターゲットになるかもしれないから、勇気がいるよね」とい

「いじめとは何か。共通認識をもった上で、いじめないようにすること。そしてできることをしたい」。2人の先生によって一生懸命に語られたメッセージは、生徒たちの心にも重く響いた様子で、配られたアンケート用紙には長い感想文が寄せられました。（まとも・広報室）

にほんご学院スピーチコンテスト

日本での発見や夢 生き生きと



にほんご学院では、2月17日に第5回となるスピーチコンテストを開催しました。このコンテストは学生全員が原稿を書いてスピーチをする全校挙げての取り組みです。当日は、9クラス140名の中からクラス代表として選ばれた19名が、自由なテーマでスピーチを披露しました。各賞は次の通りです。

- 最優秀賞 (1位) 『思いやりは難しい』キョウ・アイカ (中国)
- 優秀賞 (2位) 『夢の山』ライ・スリジャナ (ネパール) ※
- 敢闘賞 (3位) 『まさかのヨーグルト』キ・リ (中国)
- 東京ワイズメンズクラブ賞 『日本の子育てとベトナムの子育て』グエン ティ タイントウイ (ベトナム)
- 東京世田谷ワイズメンズクラブ賞 『カラテ』マヘーシ・デュランガニ・デ・ソイサ (スリランカ)
- 東京多摩みなみワイズメンズクラブ賞 『いいよね! マスク』ドー・ガン・ハ (ベトナム)



→クラスメイトによるスピーカー紹介

最優秀賞のキョウ・アイカ (中国) さんは、アルバイト中の出来事から気付いたことを話しました。

外国人ならではの視点や留学生生活の苦労など、どのスピーチも興味深く、内容を暗記して日本語で話す姿には日頃の日本語の勉強や練習の成果が表れていました。また、各スピーチの前にはクラスメイトによるスピーカー紹介が行われ、会場を盛り上げていました。

このスピーチコンテストは昨年からお協賛くださっている東京ワイズメンズクラブに加え、今年から東京世田谷、東京多摩みなみと2つのワイズメンズクラブもお協賛くださいました。多くの方々に支えられて、スピーチコンテストが開催されましたことに心より感謝申し上げます。

どなたでも見学できますので、来年度も多くの方々のお越しをお待ちしています。 (にほんご学院 松浦真理子)

※優秀賞を受賞したライ・スリジャナさんは2月24日に行われた横浜YMCA学院専門学校主催のスピーチコンテストにも出場。横浜と在日本韓国YMCAの日本語学校4校10名の代表者の中から、みごと最優秀賞に選ばれました。



↑元サッカー日本代表監督 岡田武史氏

「『指導者』監督の立場ならば、勝つことが最大の目的であり、達成するためには、選手を当然入替える。親は指導者で

『指導者』監督の立場ならば、勝つことが最大の目的であり、達成するためには、選手を当然入替える。親は指導者で

『指導者』監督の立場ならば、勝つことが最大の目的であり、達成のためには、選手を当然入替える。親は指導者で

『指導者』監督の立場ならば、勝つことが最大の目的であり、達成のためには、選手を当然入替える。親は指導者で

『指導者』監督の立場ならば、勝つことが最大の目的であり、達成のためには、選手を当然入替える。親は指導者で

1月28日、しのもめYを語る』と題し、福家睦MCAごとも園で「第11回子育て講演会」(主催:会員部、協力:三菱商事㈱)が開催され、元サッカー日本代表監督の岡田武史氏を講師に「岡田武史氏が子育ての明日

岡田武史氏 元サッカー日本代表監督 「与える」より「気づかせる」ことを

第11回子育て講演会

「『指導者』監督の立場ならば、勝つことが最大の目的であり、達成のためには、選手を当然入替える。親は指導者で

「『指導者』監督の立場ならば、勝つことが最大の目的であり、達成のためには、選手を当然入替える。親は指導者で

「『指導者』監督の立場ならば、勝つことが最大の目的であり、達成のためには、選手を当然入替える。親は指導者で

「『指導者』監督の立場ならば、勝つことが最大の目的であり、達成のためには、選手を当然入替える。親は指導者で

「『指導者』監督の立場ならば、勝つことが最大の目的であり、達成のためには、選手を当然入替える。親は指導者で

“豊かな福祉社会を創る” 「愛恵エッセイ賞」応募250人

公益財団法人愛恵支援福祉財団と東京YMCAが共催で行っている「第18回愛恵エッセイ賞」の表彰式が2月18日、北区の北とびあで行われました。大阪や名古屋をはじめ約50名が集い、受賞を共に祝いました。

このエッセイは初回から毎年「豊かな福祉社会を創るために」をテーマに、一般の部、専門職の部、学生の部に分けて全国から作品の募集を行っています。今年は「かけがえないいのちを繋ぐために」を副題として実施。過去最多となる約250人の応募がありました。

障がい者施設で働く学生の思いや、介護保険制度への提案など多彩な作品が寄せられました。どの部門の作品にも、理解し認め合いを支え合うことの大切さが前向きに述べられていて、心温まる表彰式となりました。(会員部 沖利柯)

「僕たちはかわいそうだとか気の毒だとか、見られたいわけではありません。ただみんなと一緒に生きていきたいのです。みんなの未来と僕たちの未来がどうか同じ場所にありますように」。(東田直樹)

東田さんは13歳の時に執筆した「自閉症の僕が跳びはねる理由」を2007年に上梓した重度の自閉症の作家・詩人です。私たちは東田さんの著作によって、今まで全く知らなかった、話すことは困難でも自閉症の人がきちんと考えていることを

と、豊かな感受性をもっていることに気がつくきました。もちろん個人差はあるかもしれませんが、このことを知ったことは、まさに目からウロコの感じがします。勝手に決め付けて、すべての人を一つにしてください

皆の未来が同じ所にあるように

いた自分たちの傲慢さを突き付けられました。謙虚さと「畏れ」を知ることが大事です。人を差別したり誤解したりするのはなく「みんなの未来が同じ場所にある」ように祈りましょう。東京Y

か、を示す。それは、記述の仕事次第で、時を経て「あれは何であつたのか」を推し量る手立てとなる。「何であつたか」を考察することが、歴史継承を成り立たせるのである。主筆木村熊二の『青年會演説集』は、青年に奮奮を促すために良質の講話を示し続けた。だから、当時のYMCAが何であつたかを推察できる。その時代の青年たちの学びを再現できるからである。

シリーズ 資料室の窓から(97)

京橋区銀坐二丁目

齊藤 實 本会元副総主事



『青年會演説集』明治21年発行

「京橋区銀坐二丁目十四番地東京青年會館」から『青年會演説集』第一号が出た。1888年8月17日発行の東京YMCA機関誌である。東京YMCAは発会した1880年5月から5ヵ月経った10月に『六合雑

誌(りくこうざつし)』を発行した。しかし、3年経つと創立者である小崎弘道らはこれをYMCAから離れて発行するために、警醒社を設立した。その頃、東京YMCAを「我が青年會」として関わる者は僅かな者たちでしかなかった。

しかし折良く、1882年9月に米国留学から帰国した木村熊二がYMCA幹事として働いた。私は彼を東京YMCA幻の総主事と呼ぶ。熊二が『青年會演説集』を発行するまでに5年間待った。その間の記録はない。『青年會演説集』は、当時の東京YMCAの活動をスバリ示す誌名であった。

さて、「適切な」刊行物は、その時代の人びとを啓発する。時を経れば、当時の気配を伝えてくれる。会員活動のYMCAが出す刊行物は、先ずはその時代のYMCAに何があつたか、を示す。それは、記述の仕事次第で、時を経て「あれは何であつたのか」を推し量る手立てとなる。「何であつたか」を考察することが、歴史継承を成り立たせるのである。主筆木村熊二の『青年會演説集』は、青年に奮奮を促すために良質の講話を示し続けた。だから、当時のYMCAが何であつたかを推察できる。その時代の青年たちの学びを再現できるからである。

今、東京YMCAが行っている行事の全容を、講演、時局談、礼拝説教など「今年度視聴集」など名付けて刊行物にしてはいかがか。『銀坐二丁目の『青年會演説集』が、130年後のいま、あの時代を手の中で見ることが出来るような刊行物がほしい。東京YMCA150年史を書くために必要なのである